

ママのための 日本語トレーニング

vol.14

どのご家庭でも、子どもに「これだけは守ってほしい」と思う約束や習慣はあるでしょう。そのために、日頃から注意することは大切ですが、子どもに「お母さんが、またうるさいことを言う」と思われると効果は半減です。

出口 汪 でぐち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ(小学館)が好評発売中。

最近目立ってきた、息子の小さなウソ。 クセにならないうちに、なんとか直したい!

今月のお題
伝える技術 8

問題文

最近、長男(小1)が、「(してないのに)宿題はやった」「(割ったのに)お皿を割ってない」など、なぜかすぐにばれるウソをつくようになってきました。「本当のことを言ってみよう」と、言い聞かせてはいるのですが……。

解答例

「手を洗ったほうがいい」と子ども自身から思えるような言葉かけを。

なぜウソをついてはいけないのか、ということも説明しても、あまり効果はなく、同じような状態が続いています。ただ甘えているのかな。とも思うのですが、悪いことは悪いと教えなくては! 何かいい解決策はありませんか?

(帰宅後、おやつを食べている息子を見て)

母 「ちゃんと手を洗った?」

息子 「洗ったよ」

母 「ウソをついても、洗面所に行けばわかるんだから」

息子 「洗った」

母 「じゃ、タオルや洗面台がぬれてるか、見に行こうかな」

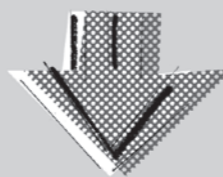
息子 「……」

母 「やっぱり、洗ってない。おなか痛くなくても知らないから」

息子 「大丈夫だよ」

母 「ウソつくつと、みんなから信用されなくなるよ」

息子 「そんなに言わなくても……」



母 「ちゃんと手を洗った?」

息子 「洗ったよ」

母 「じゃあ、大丈夫だね」

息子 「なにが?」

母 「バイ菌の心配しなくていいね」

息子 「……」

母 「夏は暑くなって湿度も多くなるから、バイ菌が元気になるんだって。だから、冬と同じくらいに手洗いが大事なよ。バイ菌がおなかに入ると、痛くなって熱が出たりするらしいよ」

息子 「ふーん、そうなんだ。じゃ、もう1回洗ってこようかな」

母 「え、どうして?」

息子 「石けん、つけてなかったから」

母 「やっぱり、外から帰って来たときや食べる前は、石けんて手を洗うことにしようよ」

息子 「うん」

母 「じゃあ、約束ね」

論理アタマが育つポイント

「外から帰ったら」「食事の前には」手を洗うことが、本来のしつけの目的のはず。
子どもに理由を説明して、実行の約束、それを守らなければ叱るのが筋道です。



わが子には正直であってほしいと思うのは当然のこと。ウソをついているならば、注意するのは親の役目です……が、日常的な小さいなこと、で傍線①のように、子どもの言葉をいきなり「ウソ」と決めつけてしまうのは、少々行きすぎかもしれません。お母さんの「こうあってほしい」という気持ちが先に立ってしまったり、子どもの気持ちや意思が置いてけぼりになりがち。問題文では、子どもは「手を洗う」ことにさして意味を感じていないようです。おいしいおやつを食べているのに、お説教するお母さんを「うるさいなあ」とやり過ぎそうとしているだけではないでしょうか。「お母さんをだましてやろう」とか「悪いことをしたから隠そう」とまで思っているわけではないのです。

「手を洗う」ことの意味が子どもに伝わっているでしょうか

その場逃れのごまかしは、決してほめられたことではありませんが、ウソをついている自覚がないのですから、「本当のことを言いなさい」と叱っても、子どもの心にお母さんの言葉が届かない。では、どうすればいいのでしょうか?

もともと、「手を洗うこと」をしつけるのが目的でした。ならば、まず、傍線②のように、「なぜ手を洗ったほうがいいか」と説明し、子ども自身に「洗わなくては!」と思わせること。インフルエンザでも感染症でも怖いものだと思えば、子どもは自分から「手を洗う」気になるでしょう。そして、それをルールとして決めることです(傍線③④)。もしも、決めたことを守らなかったら、そのときは毅然とした態度で注意すればいいのです。ウソをついたと言った子どもを責めるよりは、「約束を破りました」と言っただけで済ませます。

言いつけを守ることをだけ求めると論理力が育ちません

「でも、これまでは私の言うことはちゃんと聞いてくれたんです」というお母さんもいるかもしれません。しかし、親に言われたから、そのままやるというのが、本当に望ましいことでしょうか? 正直なところ、そのような状態を私はあまり感心しません。子どもの論理力が育っていいれば、「なぜお母さんはそんなことを言うのか」を理解して納得したいと思

うはずだからです。
また、今回のようなちよつとしたごまかしを「ウソ」と言っただけで済まないと、「ウソをつくことがいかに悪いことか」わからなくなってしまうという問題もあります。
「ウソ」をつくことは悪いことだと教えたからこそ、その言葉の意味と取り扱いには気をつけていただきたいと思うのです。



出口先生の小学生のママ向けサイトがオープン!
「ゲーんと伸びる、小学生のチカラ」<http://www.deguchi-hiroshi.com/kodomo/>